

統計等を「ただ覚える」だけではない、「考えたい」新しいテキスト！
看護師だからこそ必要な公衆衛生の「知識」と「視点」が身につく一冊



② 公衆衛生 第7版

→詳細は p.36

編集 平野 かよ子 宮崎県立看護大学名誉教授
山田 和子 藍野大学医療保健学部看護学科特任教授／和歌山県立医科大学名誉教授
守田 孝恵 獨協医科大学特任教授
福田 吉治 帝京大学大学院公衆衛生学研究科研究科長

▶ 動画19本収録



実習等に使える
ワークページ

統計データ等の
考え方のヒント

- 巻頭特設ページをリニューアルし、看護師国家試験に重要な統計データを厳選＆調べ学習やまち歩き実習等に活用できるワークページを追加しました。また、本文随所に看護につながる視点や統計データ等の考え方のヒントを追加し、能動的な学習を促します。
- 序章「なぜ看護師が公衆衛生を学ぶのか」を新設。意義を理解した上で学ぶからこそ理解が深まります。
- 「障害者保健福祉」「食品保健」の章を新設、健康日本21（第三次）やワクチン等の解説をアップデートし、子ども家庭庁の解説を追加するなど、現代社会の動向に沿って新しいトピックスを反映しています。
- 1年生からの学修を想定し、公衆衛生活動をイメージしやすいよう図表や実写動画をさらに充実させました。

すべての人の身近にある社会福祉や社会保障への理解を深め、
地域で生活する人としての視点を養う！



③ 社会福祉と社会保障 第7版

→詳細は p.38

編集 増田 雅暢 増田社会保障研究所代表／東京通信大学名誉教授
島田 美喜 社会福祉法人至誠舎舎長／至誠児童福祉研究所副所長
平野 かよ子 宮崎県立看護大学名誉教授

▶ 動画19本収録



図解で
理解を促進

- 巻頭で、「看護学生1年生」の私と家族、家族の暮らしに暮らすまに住む人々がどのような社会福祉や社会保障の制度に関わっているかをイラストを用いて紹介。制度の活用が身近に感じ、学生の興味・関心につなげます。
- 最新の動向がおさえられるようアップデート！最新の統計データを反映するとともに、孤立・孤独の問題、子ども家庭庁をはじめとする子どもに対する施策、認知症基本法など、変化の激しい社会状況への対策や課題を取り上げます。
- 第8章「生活と福祉」の事例では、**実在のALS患者の現状**もリアルに伝えます。地域で生活する療養者がより具体的にイメージでき、理解が深まります。

充実のイラスト&コンパクト化で、より法律に親しみやすく



④ 看護をめぐる法と制度 第6版

→詳細は p.40

編集 平林 勝政 國學院大学名誉教授
小西 知世 明治大学法学部准教授
和泉澤 千恵 北九州市立大学法学部法律学科准教授
西田 幸典 神奈川工科大学健康医療科学部看護学科教授

▶ 動画15本収録

- 掲載法律の厳選&動画の活用で、クオリティはそのままに、前版よりコンパクト化を実現。
- **トピックスページを新設**。近年成立した法律や重要キーワードを短いセンテンスでまとめているので、法制度のトレンドを手軽に知ることができます。
- 看護師業務と法制度の関わり方が一目でわかる**イラストガイドを新規掲載**。
- 掲載内容は、**第213回国会（2024年6月閉会）までに成立・改正された法令に基づいています**。

※2024年10月現在の情報です。掲載内容等予告なく変更する場合があります。ご了承ください。



用語解説やplus αで
学びを深める

健康と社会・生活

電子版あり

●B5判 224頁 カラー 定価2,970円(本体2,700円+税10%) ISBN978-4-8404-8157-1 第6版 2024年1月



本書の内容

- 大きく変動する現代社会のなかで、患者の生活を理解するためには看護職としての「ビジョン」が必須であることが強く意識できる1冊です。健康教育などで重要となる社会的な健康、科学からとらえた健康行動についての解説も充実しています。
- 学生自身を含めた「個人の生活」から、集団・組織、家族、地域社会、国際社会へと、円を大きくするように視点を広げていきます。教科書を学び終わるころには、人の生活について、その人を取り巻く周囲の環境・社会全体まで含めて考えられるようになることを目指した構成となっています。
- 第7章・第11章で、人々の生活・健康と切り離せない経済状況(健康格差)、労働環境、情報行動について解説します。11章では、情報技術の発展による受診・療養環境の変化にも焦点をあて、患者の生活を紹介しています。
- 対立や葛藤、紛争といったコンフリクトを、協調、協働へと発展させる方法や提案を第4章「個人および集団における対立と協働」で解説しています。
- 第12章には、生殖医療技術や遺伝子診断、再生医療、そして臓器移植と延命治療という、生命科学の進展により新たに登場した技術と人間性の調和を考えるページを収載しています。

編集

平野かよ子 宮崎県立看護大学名誉教授
 本多 敏明 淑徳大学コミュニティ政策学部准教授

松宮 朝 愛知県立大学教育福祉学部教授

執筆(掲載順)

平野かよ子 宮崎県立看護大学名誉教授<序章、2章1・2・6・7節、5章>
 本多 敏明 淑徳大学コミュニティ政策学部准教授<1章>
 朝倉 隆司 東京学芸大学教育学部看護教育講座特任教授<2章3~5節、7章>
 西脇 暢子 日本大学経済学部教授<3章1~3節>
 佐藤 俊一 NPO法人スピリチュアルケア研究会ちば理事長<3章4節>
 石原 明子 熊本大学大学院人文社会科学部准教授<4章>
 島内 憲夫 広島国際大学客員教授、順天堂大学名誉教授<6章1~4節>
 廣水 乃生 茨城キリスト教大学文学部児童教育学科児童教育コース兼任講師、特定非営利活動法人友部コムONS共同代表、ASD株式会社代表理事<6章5~7節>

青柳 涼子 淑徳大学コミュニティ政策学部教授<8章1~3節>
 森川 夏乃 愛知県立大学教育福祉学部准教授<8章4~6節>
 松宮 朝 愛知県立大学教育福祉学部教授<9章>
 明石 純一 筑波大学人文社会系教授<10章1~6節>
 田代 順子 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所特任教授<10章7節>
 濱 雄亮 東京交通短期大学運輸科教授<11章>
 小林亜津子 北里大学一般教育部教授<12章>

目次

序章●看護と生活・社会と社会保障

健康・社会を念頭に置いたしくみの再構築/これから看護職を目指す者への期待

第1部●社会と生活者

第1章●社会

「社会」を学ぶのは現場でのより良い実践のため/社会の構造を理解する/社会現象の機能を理解する/戦後の日本社会の諸特徴/現代社会はどのような社会か/現代社会の課題に看護はどう対応するか

第2章●生活と生活者

日常生活と日常性/多面的な日常生活のとらえ方/生活の諸相と生活の理論/QOL/ライフスタイル・ライフコース・ライフステージ/対象者の生活の理解と把握/保健医療専門職の生活をとらえる姿勢

第3章●集団・組織

構成員としての個人/集団/組織/これからの集団と組織/病院組織

第4章●個人および集団における対立と協働

さまざまなレベルでの対立・葛藤・紛争:コンフリクト/なぜ対立や葛藤(コンフリクト)は起きるのか/対立から協働へ:建設的対立・葛藤解決の方法/さまざまな対話の方法/保健・医療・福祉の現場におけるコンフリクト

第2部●健康

第5章●社会的な健康

健康とは:WHOの健康の定義/社会的健康とは/人々の安全・安寧が保障される社会

第6章●科学からとらえた健康行動:ヘルスプロモーション時代の中でヘルスプロモーション時代の到来/行動科学とは/行動の理解を助ける基本理論とモデル/健康行動の理解を助ける理論とモデル/集団の中での人の行動特性/保健・医療領域にみられる小集団の特徴:機能・効用/集団の形成と発展過程

第3部●社会の変化と健康

第7章●社会経済の変化と健康

社会経済構造の変化:前近代から産業革命、情報革命を経た今日/ライフスタイル・社会経済と健康格差/働き方(労働生活)と健康

第8章●家族と健康

家族とは何か/変容する社会と家族/家族のケア機能/ライフステージでみる家族の課題/多様化する家族/家族のこれから

第9章●地域社会と健康

なぜ地域社会が重要なのか/地域社会の変容とコミュニティ

第10章●国際社会と健康

現代の国際社会:グローバル化/グローバル化の諸相:モノ・カネ・ヒト・情報の越境/グローバル化についての解釈/日本における外国人材の受け入れ/多文化化する社会への理解/SDGs/ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)

第11章●情報社会の発展と健康

情報技術と社会/医療の世界における情報技術の活用/人々の情報行動・情報技術の活用のあり方/現代の看護師に求められるメディアリテラシー

第12章●生命倫理と健康

医療技術の発展と生命倫理/生殖医療技術の発展と生命倫理:着床前診断/生殖医療技術の発展と生命倫理:出生前診断/発症前遺伝子診断の発展と生命倫理/再生医療の発展と生命倫理/臓器移植と生命倫理/延命治療と生命倫理

シラバス・授業計画案あり

動画10本収録



ワークシートや設問で自習・グループ学習に最適

重要な理論・概念をイラストで身近に

表2-2 私の日常生活の過ごし方(ワークシート)

自分が日々の日常生活でしていること:以下の事項について、書き出してみよう

事項	金額、時間、頻度など
生計	生活費・学費:仕送り・アルバイト
生活の管理	食料・日用品の購入・保管
	ライフライン:電気・水・ガス等
	インターネット環境
	家計
食生活	生活時間、健康管理
	家財道具、防犯、火災予防等
衣類・寝具	食材の購入、調理、後片付け
住居	購入、洗濯、縫い、布団干し
清潔保持	掃除、ごみ出し
家族、ペット	入浴
近所等の付き合い	世話
その他	

私が日々の生活で大事にしていること

表2-3 私の一日の過ごし方:平日と休日(ワークシート)

起床から就寝までの平日と休日の一日の過ごし方を書き出してみよう

時刻	平日の様子	休日の様子
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00		
15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		
23:00		
0:00		

動、語の体系)と定義した。活動を受ける側となるのが、(負)負感。③コミュニケーションである。これらは、そのうちどれが欠けても組織にならないことから、組織の3要素と呼ばれる。

1 集団が組織になるとき

バーナードの組織の定義と組織の3要素の優れた点は、集団と組織は状況に応じてどちらにもなり得ることを示した点である。仲良し集団は、普段は一緒にしゃべりなどをしながら楽しんでいるだけだが、例えば街中で困った人を見つけた場合、集団のメンバーは困っている人を助けるという共通目的をもち、その解決のためにそれぞれが貢献意欲を発揮し、互いに意思疎通しながら解決にあたる。このときの仲良し集団はただの集団ではなく組織である。ワークチームは本来であれば組織のはずだが、メンバーがただ一緒に働いているだけで、互いに協力したり、チームのために貢献しようとしなければ、ただのワークグループにすぎない。組織が組織であるためには、構成員にどのようにして3要素をもたせ、どのような方法でそれを維持するかが課題となる。



p.44

1 Bさんの1日

事例

起床
Bさんが朝に目を覚まして最初にすることは、血糖値を反映しているグルコース値の確認である。といっても採血するのではなく、体に着けたセンサーにスマートフォンを近づけて読み取るのである。

この測定方法の利点は、測定8時間前からのグルコース値の変動のグラフがスマートフォンで見られることである。また、現在グルコース値が上昇中なのか下降中なのか、そのどちらでもないのかが矢印マークで表示されることである。これは、糖分補給(以下、補食)などの対処が必要な「低血糖」の基準値である70mg/dLを少し上回る値、例えば85mg/dL程度であった際に、それが上昇中の85mg/dLであれば補食は不要、下降中の85mg/dLでかつそのあとに会議や移動があれば補食が必要と判断できる。この判断は、指先や耳からの血を使って血糖測定器で単一時点の血糖値しか把握できなかったかつては異なり、常時接続で継続的にグルコース値をモニタリングし、それを手軽なデバイスで確認できるからである。

朝食
Bさんは慌ただしく食事をしながら、腰につけたポンプの設定を確認する。この日の朝食の糖質量とその後の運動量がいつも通りなら設定はそのまま。違う場合はインスリンの増減が可能である。また、注射の形で一度に打つよりも、長い時間をかけて徐々にインスリンを体内に入れるポンプのほうが体の自然なインスリン分泌に近い。

出勤
ポンプを確認しながら子どもの保育園の連絡帳アプリを操作し、軽く夕飯の仕込みをしたBさんは、保育園を経由して職場に向かう。子どもから繰り返し指さることを要求され「低血糖気味かもしれない」と思ったときや、途中で低血糖になるわけにはいかない大事な会議、顧客と立て続けに会う場合などには、念のためスマートフォンでグルコース値を確認する。ちなみにこのモニターは、一定の低血糖や高血糖になるとアラームや振動で知らせてくれる。Bさんの場合、低血糖は感覚的にわかることが多い。そのため、この機能によって血糖値の異常を知るのは、高血糖のときのほうが多いという。

昼食
Bさんは、昼食前にもグルコース値を確認した。この日は美食家の上司が決めたお弁当を食べながらのランチミーティングがあったため摂取糖質量が多く、かつ午後は会議の連続で全く体を動かさない見込みのため、グルコース値は正常だったものの、ポンプを操作してインスリンの追加打ちをした。しかし、結局血糖値が予想よりも高くなり、最後の会議の最中に高血糖を知らせるアラームが鳴ってしまった。

事例で具体的に学べる

p.64

公衆衛生

電子版あり

●B5判 360頁 カラー 定価3,630円(本体3,300円+税10%) ISBN978-4-8404-8466-4 第7版 2025年1月



シラバス・授業計画案あり

動画19本収録



調べ学習やまち歩き実習に活用できるワークページ

統計データ等の考え方のヒントを掲載

本書の内容

- 看護職にとって欠かせない保健・福祉の概念・知識を簡潔に説き明かし、「個」だけでなく、「集団」「社会」の視点からも健康問題を見る目を育てます。
- 「総論」「方法論」「各論」の三部構成で広範な公衆衛生の世界をわかりやすく整理。「総論」では、公衆衛生の理念や歴史、現在の公衆衛生システムの特徴など、基本的事項について明確に説明します。「方法論」では、疫学・統計の基本とその活用方法を掲載し、「地域」「集団」などを対象とした公衆衛生活動の実践方法についても紹介します。「各論」では、親子・高齢者など対象別の関わり方や、歯科保健・精神保健・学校保健・産業保健など分野別の公衆衛生を解説しています。
- 巻頭に調べ学習やまち歩き実習に活用できるワークページを設け、本文随所には看護につながる視点や統計データ等の考え方のヒントを示しています。教科書を読んでただ覚えるだけでなく、学生自身が考える力を養う工夫を施しています。
- 序章「なぜ看護者が公衆衛生を学ぶのか」や「障害者保健福祉」「食品保健」を章立てし、現代社会の動向に沿って新しいトピックスを反映しています。各章の重要なポイントがわかりやすいよう、図表を活用し簡潔に解説しています。

編集

平野かよ子	宮崎県立看護大学名誉教授	守田 孝恵	獨協医科大学特任教授
山田 和子	藍野大学医療保健学部看護学科特任教授、和歌山県立医科大学名誉教授	福田 吉治	帝京大学大学院公衆衛生学研究所研究科長

執筆(掲載順)

平野かよ子	宮崎県立看護大学名誉教授<序章、4章10節>	嶋野 洋子	九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野教授<7章>
首根 智史	国立保健医療科学院院長<1章、2章2節1、18章1節>	三浦 宏子	北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系保健衛生学分野教授<8章>
尾崎 米厚	鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分科教授<2章1節>	金谷 泰宏	東海大学医学部医学科基礎診療学系臨床薬理学教授<9章1~3節>
福田 吉治	帝京大学大学院公衆衛生学研究所研究科長<2章2節2>	王子野麻代	元 日本医師会総合政策研究機構主任研究員<9章1~3節>
藤原 聡子	千葉大学予防医学センタープロジェクト研究員<2章2節3>	小西かおる	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻教授<9章4節>
近藤 克則	千葉大学予防医学センター健康まちづくり共同研究部門特任教授<2章2節3>	磯村 聡子	山口県字部健康福祉センター健康増進課精神・難病班主任<10章>
清水 習	宮崎公立大学人文学科准教授<2章2節4>	河野 朋美	宮崎県立看護大学看護学部公衆衛生看護学分野講師<11章>
阿彦 忠之	山形県病院事業局病院事業管理者<2章3節、13章>	谷口 力夫	公益社団法人日本食品衛生協会技術参事<14章>
奥田 博子	国立保健医療科学院健康危機管理研究部上席主任研究官<2章4節、12章>	牛山 明	国立保健医療科学院生活環境研究部部長<15章1・3節>
大木いずみ	埼玉県立大学医療福祉学部健康開発学教授<3章、6章4節>	秋葉 道宏	国立保健医療科学院統括研究官<15章2節>
守田 孝恵	獨協医科大学特任教授<4章1・3・7節、10章>	増田 貴則	国立保健医療科学院統括研究官<15章4節>
山田 和子	藍野大学医療保健学部看護学科特任教授、和歌山県立医科大学名誉教授<4章2・4・5・8・9節、5章>	本間 義規	国立保健医療科学院統括研究官<15章5節>
前馬 理恵	和歌山県立医科大学保健看護学研究所<4章6節>	山口 一郎	国立保健医療科学院生活環境研究部主任研究官<15章6節>
大木 幸子	杏林大学保健学部看護学科教授<6章1・2・3節>	中村富美子	沼津市立大岡中学校養護教諭<16章>
		五十嵐千代	東京工科大学医療保健学部看護学科教授<17章>
		田代 順子	聖路加国際大学名誉教授<18章2・3節>

目次

第1部 総論

序章 ●なぜ看護者が公衆衛生を学ぶのか
私たちの暮らしと公衆衛生 / 公衆衛生とは

第1章 ●公衆衛生の歴史と理念
公衆衛生改善の歩み / 公衆衛生とは何か / 公衆衛生の理念 / 公衆衛生を学ぶ意義

第2章 ●公衆衛生の概念とシステム
日本の公衆衛生システムの全体像 / 社会における健康(健康のとらえ方) / 公衆衛生の推進体制 / 健康危機管理

第2部 方法論

第3章 ●公衆衛生のものさし
集団の見方と健康指標 / 研究の方法 / リスクファクター / スクリーニング / 公衆衛生活動における疫学 / 統計情報の収集と見方

第4章 ●公衆衛生活動のプロセス
保健師の活動の特徴 / ハイリスコアアプローチ、ポピュレーションアプローチとPDCAサイクル / 地域診断(地区診断)の意義と活用 / 家庭訪問の意義と活用 / 健康診査

(健診)・検診の意義と活用 / 健康教育の意義と活用 / 健康相談の意義と活用 / ネットワークの意義と活用 / グループ・地域組織の育成・支援 / 地域での保健師の役割

第3部 各論

第5章 ●親子保健
親子保健とは / 現在の親と子に対する施策 / 地域母子保健対策の体系 / 親子保健における保健師の役割と特徴 / 健康課題と支援のポイント

第6章 ●生活習慣病とがん対策
健康づくり対策 / 健康に影響を与える生活習慣 / 生活習慣病対策・課題と保健活動 / がん対策・予防と支援

第7章 ●高齢者保健医療福祉
高齢者保健とは / 高齢者を支えるシステム・制度 / 地域における活動の実例

第8章 ●歯科保健
歯科保健とは / 歯科保健の現状 / 歯科保健対策・課題と保健活動

第9章 ●難病対策
難病対策とは / 難病対策の歩み / 難病に対する医療体制 / 難病対策・健康課題と保健活動

自分たちが暮らす市区町村について調べてみよう!

自分たちが暮らす市区町村について調べ、そこから見える地域の特色について考えてみよう。そこに暮らしやすさの課題と必要な支援がみえてくるよ!

人口・出生・死亡

- 総人口: 人
- 年少人口割合(0~14歳): %
- 生産年齢人口割合(15~64歳): %
- 老年人口割合(65歳以上): %
- 出生数: 人
- 出生率: 人/1000人
- 合計特殊出生率: %
- 平均寿命(男): 歳 (女): 歳
- 年齢調整死亡率: %
- 乳児死亡率: %

医療・保健

- 病院数: 約 施設
- 乳児検診の受診率 1歳6か月: %
- 死因順位 1位: 2位: 3位: %
- 保健所の場所: 保健センターの場所:

世帯

- 世帯数: 約 世帯
- 1世帯あたりの人数: 約 人
- 高齢者(65歳以上)の世帯割合: %
- 高齢者単独世帯割合: %

Q1: 人口当たりの数値を使い、国のデータと比較して、この市区町村にはどのような特徴があるか?

Q2: 国のデータと比較して、この市区町村にはどのような特徴があるか?

Q3: 国のデータと比較して、この市区町村にはどのような特徴があるか?

Q4: この市区町村で取り組んでいる特徴的な健康づくりを調べてみよう!

p.21

歴史から近年の動向まで簡潔に解説

1 環境保健とは

環境保健は、人間の健康と直接関連する環境要因に焦点を当てた公衆衛生の分野である。これには大気、水質、土壌の汚染、化学物質の汚染、生物学的多様性の喪失など幅広い要素が含まれる。本書ではこれら環境因子の現状、健康状態を把握し、それに基づいて健康への影響を評価することが重要であることを理解し、より良い生活環境の創成が公衆衛生の向上に深く関係することを学ぶ。

2 近年の動向

近年は、人の健康に対する影響だけでなく、生物の生態系や気候変動にも関心が高まっている。環境保健の分野でも、気候変動や生物多様性の喪失が健康に与える影響が注目されている。化学物質管理やリスク評価など、より幅広い環境要因に目を向ける必要が生じている。従来の公衆衛生では、疾病の予防や健康増進が中心だったが、近年では環境要因が健康に与える影響が注目され、環境保健の重要性が再認識されている。

3 環境保健の背景・目的

環境保健の主な目的は、国民の健康を守り、持続可能な社会を実現することである。近年では健康増進や生活習慣病の予防だけでなく、気候変動や生物多様性の喪失が健康に与える影響が注目されている。化学物質管理やリスク評価など、より幅広い環境要因に目を向ける必要が生じている。従来の公衆衛生では、疾病の予防や健康増進が中心だったが、近年では環境要因が健康に与える影響が注目され、環境保健の重要性が再認識されている。

4 健康日本21(第三次)における環境の目標

健康日本21(第三次)において、国民の健康増進に資する基本的な方向として、社会環境の質の向上が示されている。社会環境の質の向上が促進される背景としては、健康の社会環境モデル(第4編2-10)が広く認識され

図14-6 全国環境別別食中毒事件数と患者数

食中毒事件数: 1,021件 (発生数: 1,021件)

患者数: 13,803人

原因別割合: 細菌性食中毒(47%)、ウイルス性食中毒(27%)、化学物質性食中毒(16%)、アレルギー性食中毒(2%)、原因不明(8%)

地域別割合: 関東圏(47%)、中部圏(27%)、近畿圏(16%)、中国圏(2%)、四国圏(2%)、北海道圏(1%)

p.26

p.27

社会福祉と社会保障

電子版あり

●B5判 304頁 カラー 定価3,300円(本体3,000円+税10%) ISBN978-4-8404-8467-1 第7版 2025年1月



本書の内容

- 一人の生活者として押さえておきたい社会福祉や社会保障の知識を掲載。歴史や理念から、制度の概要、実践方法まで、オールラウンドに学ぶことができます。
- 法制度の改正や最新の統計など、社会の動きを細やかに反映させています。
- 患者のケースを取り上げ、障害・疾患を抱えながら社会とのつながりをもって生きるということを、具体的に知ることができます。また、実在のALS患者の現在を追いつながりながら、リアルなメッセージを紹介しています。

■編集	
増田 雅暢 増田社会保障研究所代表、東京通信大学名誉教授	平野かよ子 宮崎県立看護大学名誉教授
島田 美喜 社会福祉法人至誠学舎立川 至誠児童福祉研究所副所長	
■執筆(掲載順)	
島田 美喜 社会福祉法人至誠学舎立川 至誠児童福祉研究所副所長 <図解 身近な生活の社会福祉や社会保障>	内田 宏明 日本社会事業大学社会福祉学部福祉援助学科准教授<5章1節> 大塚 晃 一般社団法人日本発達障害ネットワーク副理事長<5章2節>
平野かよ子 宮崎県立看護大学名誉教授<序章>	内藤佳津雄 日本大学文理学部心理学科教授<5章3節>
岩崎 晋也 法政大学副学長・現代福祉学部教授<1章>	岡部 卓 新潟医療福祉大学心理・福祉学部社会福祉学科特任教授、 東京都立大学名誉教授<6章>
増田 雅暢 増田社会保障研究所代表、東京通信大学名誉教授<2章>	原田啓一郎 駒澤大学法学部法律学科教授<7章1・2節>
渡辺 裕美 東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科教授 <3章1・2・3節>	石田 道彦 金沢大学人間社会学域法社会学類教授<7章3・4・5節>
村井 祐一 田園調布学園大学学長補佐兼人間福祉学部長・教授<3章4節>	土屋 葉 愛知大学文学部人文社会学科教授<8章1節>
秋山 智久 福祉哲学研究所所長、元 大阪市立大学教授<3章5節>	田中恵美子 東京家政大学人文学部教育福祉学科教授<8章2>
佐藤 信人 コミュニティオーガニゼーション研究所所長、元 武蔵野大学教授 <4章>	

目次

序章 ●なぜ看護者は社会福祉や社会保障を学ぶのか

第1章 ●現代社会と社会福祉

生活を支える三つのしくみ / 社会福祉の役割 / 社会福祉の方法

第2章 ●社会保障の動向

社会保障とは / 社会保障の歴史 / 社会福祉をめぐる新たな課題

第3章 ●社会福祉のしくみ

社会福祉サービスの体系と提供組織 / 社会福祉の担い手と役割 / 社会福祉と看護の連携 / 社会資源の活用方法 / 社会福祉実践

第4章 ●地域福祉の推進

地域福祉の理念と定義 / 地域福祉計画 / 地域福祉推進を支えるもの / 地域共生社会への取り組み

第5章 ●対象別にみた社会福祉

子ども・家庭の福祉 / 障害児・者の福祉 / 高齢者の福祉

第6章 ●貧困に対する支援

公的扶助制度 / 生活保護における生活保障 / 生活困窮者対策と生活保護制度の見直し / その他の低所得者対策

第7章 ●社会保険

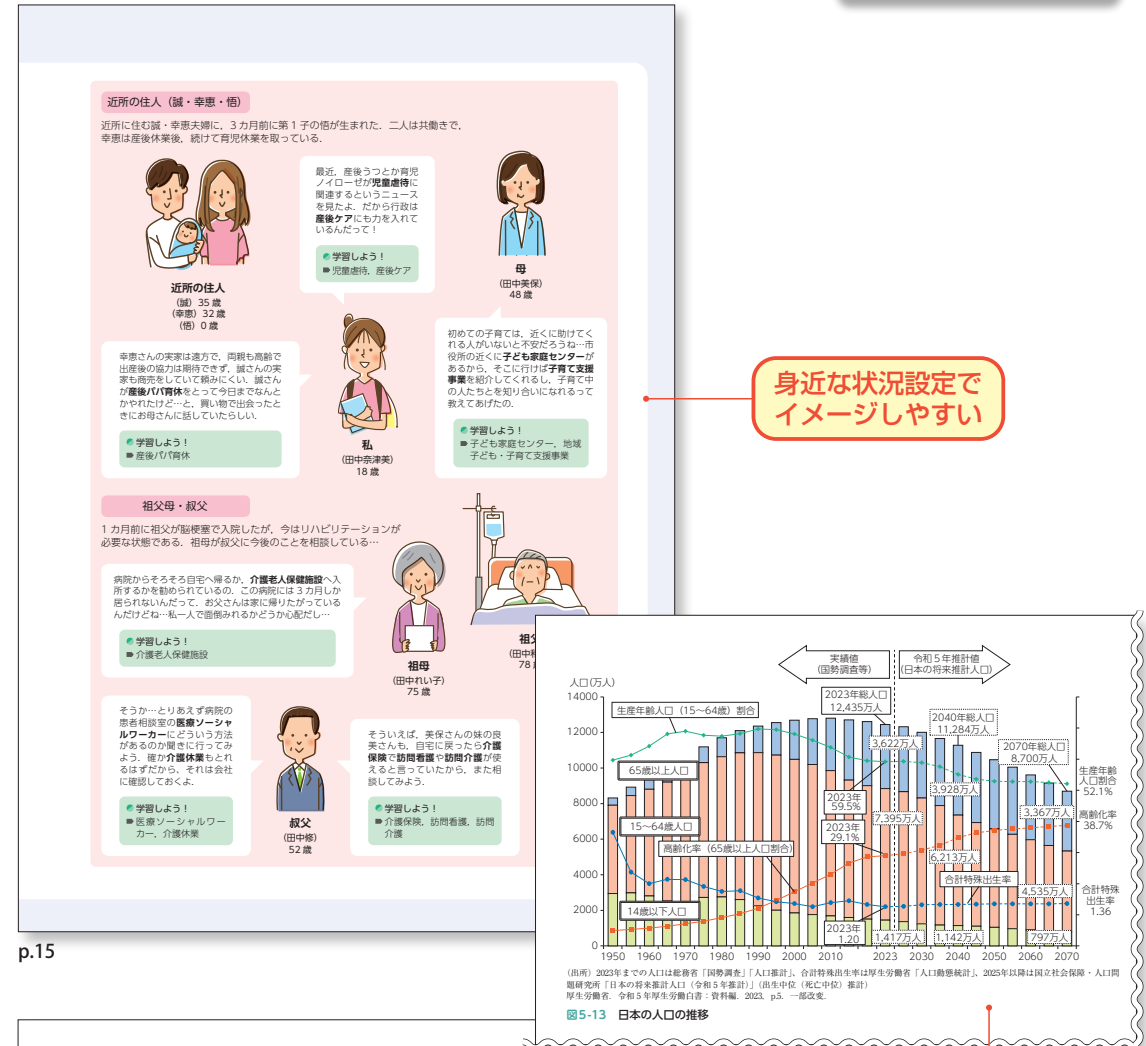
年金制度 / 医療保険制度 / 介護保険制度 / 雇用保険制度 / 労災保険制度

第8章 ●生活と福祉

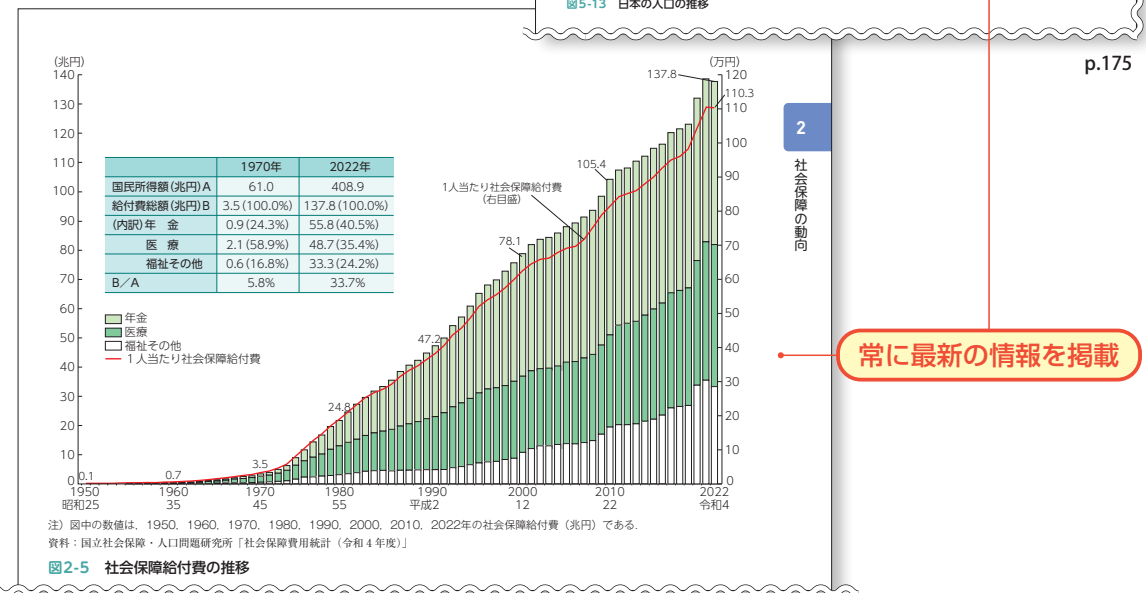
地域で生活すること / 事例に学ぶ：社会とのつながりをもって生きるALS患者

シラバス・授業計画案あり

動画19本収録



p.15



p.43

看護をめぐる法と制度

電子版あり

●B5判 約350頁 カラー 予価3,300円(本体3,000円+税10%) ISBN978-4-8404-8468-8 第6版 2025年1月



シラバス・授業計画案あり

動画15本収録



本書の内容

- 掲載する法律を厳選し、図表化や動画コンテンツの活用などにより、クオリティはそのままに前版よりコンパクト化を実現。各法律のイメージイラストも追加し、より身近に使っていただける一冊になりました。
- 表現を徹底的に検討し、法律の解説としての正しさを保ちながらも、難解な法律用語を用いずわかりやすく解説しています。用語解説やplusαなども充実、学びをサポートします。
- 多職種連携の時代に、看護師が他職種と法的にどのような業務連携・業務分担をするのかを理解しやすいように、資格法ごとに細やかに解説しています。
- 看護師の業務と法制度がどのように関わっているのか、一目でわかるイラストMAPを巻頭に設けました。初学者が抱きがちな疑問をまとめたQ&Aも掲載しています。
- 新設の「トピックス」ページでは、「LGBT理解増進法」「認知症基本法」「共同親権」など、近年成立した法律や重要キーワードなどを短いセンテンスでまとめているので、法制度のトレンドを手軽に知ることができます。
- 「育児・介護休業法」や「雇用保険法」など、第212回～213回国会で成立・改正された法令に基づき、内容を更新しています。

編集

平林 勝政	國學院大学名誉教授	和泉澤千恵	北九州市立大学法学部法律学科准教授
小西 知世	明治大学法学部准教授	西田 幸典	神奈川工科大学健康医療科学部看護学学科教授

執筆(掲載順)

川村佐和子	東京都医学総合研究所社会健康医学センター難病ケア看護ユニット客員研究員<多職種連携時代に求められる「新しい」看護と法のテキスト>	李 庸吉	大阪市立大学人権問題研究センター特別研究員<3章1節16>
小西 知世	明治大学法学部准教授<特設、4章2節7、7章>	宮下 毅	文教大学人間科学部教授<3章2節1、5章2節4・5>
平林 勝政	國學院大学名誉教授<1章、3章1節7・9・10、3章3節2、8章>	上之園佳子	元 日本大学文理学部社会福祉学科特任教授<3章2節2>
佐藤雄一郎	東京学芸大学教育学部教授<2章、4章2節1・3、6章1節、6章2節1~4>	神坂 亮一	川村学園女子大学生生活創造学部生活文化学科兼任講師、明治大学法学部ELM客員研究員<3章3節1、6章5節>
酒井美絵子	武蔵野大学看護学部看護学学科教授<3章1節1(序文、看護師)、5章2節15・18>	井上 悠輔	京都大学大学院医学研究科医療倫理学分野教授<4章2節4~6>
菅原 京子	山形県立保健医療大学保健医療学部看護学学科教授<3章1節1(保健師)>	原田啓一郎	駒澤大学法学部法律学科教授<5章1節1~3>
岡本喜代子	公益財団法人東京助産師会館理事長<3章1節1(助産師)>	小西 啓文	明治大学法学部教授<5章1節4>
峯川 浩子	常葉大学法学部法律学学科教授<3章1節2、5章2節16・17>	石嶋 舞	ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ法・経済学部客員研究員<5章2節1・6~10>
磯部 哲	慶應義塾大学大学院法務研究科教授<3章1節3>	本田 まり	芝浦工業大学工学部情報通信工学科教授<5章2節2>
柴野 荘一	医療創生大学歯科衛生専門学校歯科衛生Ⅱ学科教務主任/医療創生大学国際看護学部看護学学科兼任講師<3章1節4・14・15>	永水 裕子	桃山学院大学法学部教授<5章2節3・11~14>
十万佐知子	武庫川女子大学薬学部講師<3章1節5、4章1節>	渡部 朗子	高岡法科大学法学部准教授<6章2節5~7>
和泉澤千恵	北九州市立大学法学部法律学学科准教授<3章1節6・10・11・13、4章1節、4章2節2・8>	千葉 華月	北海学園大学法学部教授<6章3節>
仙波 浩幸	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部理学療法学専攻長、教授<3章1節8>	藤原 静雄	中央大学名誉教授<6章4節>
西田 幸典	神奈川工科大学健康医療科学部看護学学科教授<3章1節12>	横野 恵	早稲田大学社会科学部准教授<6章6節>
		朴 孝淑	神奈川大学法学部准教授<6章7節>
		谷田川知恵	東京慈恵会医科大学非常勤講師<6章8節>
		長島 光一	帝京大学法学部法律学学科准教授<6章9節>
		瀬戸山晃一	京都府立医科大学大学院医学研究科医学生命倫理学教授<9章序文・1節・2節>
		一家 綱邦	国立がん研究センター研究支援センター生命倫理部部長<9章3節>

目次

- MAP①身の回りにある「法と制度」
- Q&A「法と制度」についての素朴な疑問
- MAP②看護基礎教育と本書で解説する主な法律とのゆるやかな対応
- 特設「看護をめぐる法と制度」ナビゲーショントピックス

第1部 ●保健医療福祉と法の関わり方

第1章 ●チーム医療と法の構造 医療スタッフに関する法の枠組み / 医療スタッフの業務分担と連携に関する法の枠組み

第2章 ●医療提供の理念と医療安全：医療法での扱い 医療法の歩み / 医療提供の理念 / 医療安全 / 医療法の理念と実際

第2部 ●看護をめぐる法

●MAP③看護をめぐる法体系

第3章 ●人に関する法律

1 医療専門職 (保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律、医師法、歯科医師法、薬剤師法、診療放射線技師法、臨床検査技師等に関する法律、理学療法士及び

MAP① 看護基礎教育と本書で解説する主な法律とのゆるやかな対応

看護の学習領域	主な学習内容(看護キーワード)	掲載箇所	学習領域と対応する主な法律等
看護の基礎	解剖学、生理学、生化学、微生物学	4章2節	予防接種法
	身体検査	3章1節	臨床検査技師等に関する法律
	看護倫理	3章1節	医師法、歯科医師法
	病室に対する感染対策	4章1節	感染症法、労働安全衛生法(「感染法」)
看護実践の基礎	病室の分類、患者のケア、入退院の手続き、緊急事態への対応	4章2節	感染症法(「感染法」)
	入退院、救急に対する業務法以外の倫理	4章1節	医師法
地域看護学	高齢者のケア、認知症、痴呆	3章1節	認知症対応型老人介護支援施設法
	認知症、痴呆、認知症対応型老人介護支援施設	4章2節	認知症
	認知症対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	認知症対応型老人介護支援施設法
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
成人看護学	精神科の看護、自立と社会参加のための関わり	3章2節	精神保健法
	精神科の看護、自立と社会参加のための関わり(異年代)、再就職支援	3章2節	精神保健法
	精神科の看護、自立と社会参加のための関わり(異年代)、再就職支援	3章2節	精神保健法
	精神科の看護、自立と社会参加のための関わり(異年代)、再就職支援	3章2節	精神保健法
老年看護学	認知症対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
小児看護学	児童福祉法(児童福祉法)、児童福祉法	3章1節	児童福祉法
	児童福祉法(児童福祉法)、児童福祉法	3章1節	児童福祉法
	児童福祉法(児童福祉法)、児童福祉法	3章1節	児童福祉法
	児童福祉法(児童福祉法)、児童福祉法	3章1節	児童福祉法

看護の学習領域	主な学習内容(看護キーワード)	掲載箇所	学習領域と対応する主な法律等
男性看護学	プロラクチンレベルに関する診断と治療	5章2節	診療報酬法
	男性の健康、肥満、運動療法、育児休業、ハラスメントへの対応	5章2節	労働安全衛生法
	男性の健康、肥満、運動療法、育児休業、ハラスメントへの対応	5章2節	労働安全衛生法
	男性の健康、肥満、運動療法、育児休業、ハラスメントへの対応	5章2節	労働安全衛生法
精神看護学	認知症対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
在宅看護学	在宅医療の推進(在宅医療推進法)	5章2節	在宅医療推進法
	在宅医療の推進(在宅医療推進法)	5章2節	在宅医療推進法
	在宅医療の推進(在宅医療推進法)	5章2節	在宅医療推進法
	在宅医療の推進(在宅医療推進法)	5章2節	在宅医療推進法
看護の基礎と実践	認知症対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆
	痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設に関する法律、痴呆、痴呆対応型老人介護支援施設	4章2節	痴呆



多職種連携時代に求められる「新しい」看護と法のテキスト

法改正や最新の社会情勢などに基づいて情報をアップデート!

作業療法士法、視能訓練士法、臨床工学士法、義肢装具士法、救急救命士法、言語聴覚士法、歯科衛生士法、歯科技工士法、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律(柔道整復師法)

2福祉専門職 (精神保健福祉法、社会福祉士及び介護福祉士)

3非医療・非福祉専門職 (栄養士法、公認心理師法)

第4章 ●物・場所等に関する法律

1物に関する法律 (医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、麻薬及び向精神薬取締法、あへん法/大麻草の栽培の規制に関する法律/覚醒剤取締法)

2場所に関する法律 (医療法、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法、高齢者住まい法、感染症法、予防接種法、墓地、埋葬等に関する法律、健康増進法、学校保健安全法)

第5章 ●支えるシステムに関する法律

1お金で支えるシステムに関する法律 (健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、介護保険法)

2社会が支えるシステムに関する法律 (生活保護法、母体保護法、母子保健法、精神保健福祉法、心神喪失者等医療観察法、障害者基本法、障害者総合支援法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、発達障害者支援法、児童福祉法、児童虐待防止法、母子及び父子並びに寡婦福祉法、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律、DV防止法、老人福祉法、高齢者虐待防止法、難病医療法)

第3部 ●社会を支える法の枠組み

●MAP④政策に関わる基本法等の関連法令

第6章 ●政策に関わる基本法等の関連法令

1医療政策に関する法律 (社会保障制度改革推進法、社会保障改革プログラム法、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律、地域保健法、がん対策基本法、がん登録推進

法、循環器病対策基本法、肝炎対策基本法、食育基本法、アレルギー疾患対策基本法、アルコール健康障害対策基本法、キャンパー等依存症対策基本法)

2今日的な支え合い政策に関する法律 (自殺対策基本法、成育医療等基本法、こども基本法、認定こども園法/子ども育て支援法、認知症基本法、成年後見制度の利用の促進に関する法律、任意後見契約に関する法律)

3災害政策に関する法律 (災害対策基本法、災害救助法)

4情報政策に関する法律 (個人情報保護法、次世代医療基盤法)

5食品安全政策に関する法律 (食品衛生法、食品安全基本法)

6少子高齢政策に関する法律 (高齢社会対策基本法、少子化社会対策基本法、次世代育成支援対策推進法)

7労働政策に関する法律 (労働基準法、労働契約法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、過労死等防止対策推進法、雇用保険法)

8ジェンダー政策に関する法律 (男女共同参画社会基本法、女性活躍推進法)

9環境政策に関する法律 (環境基本法、公害健康被害の補償等に関する法律、廃棄物処理法、環境衛生に関する営業・建物の衛生分野)

第4部 ●法制度を取り巻く考え方

第7章 ●インフォームドコンセント 医療行為における患者の同意と自己決定 / 代諾 / ICが志すもの、求めるもの / ICにおける説明のポジション / 説明内容 / これからのIC

第8章 ●看護過誤 (医療過誤) 医療事故と医療過誤 / 三つの法的責任

第9章 ●法と生命倫理 生命倫理総論 / 生命倫理各論 / 研究倫理

2024年10月現在の情報です。目次等は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。